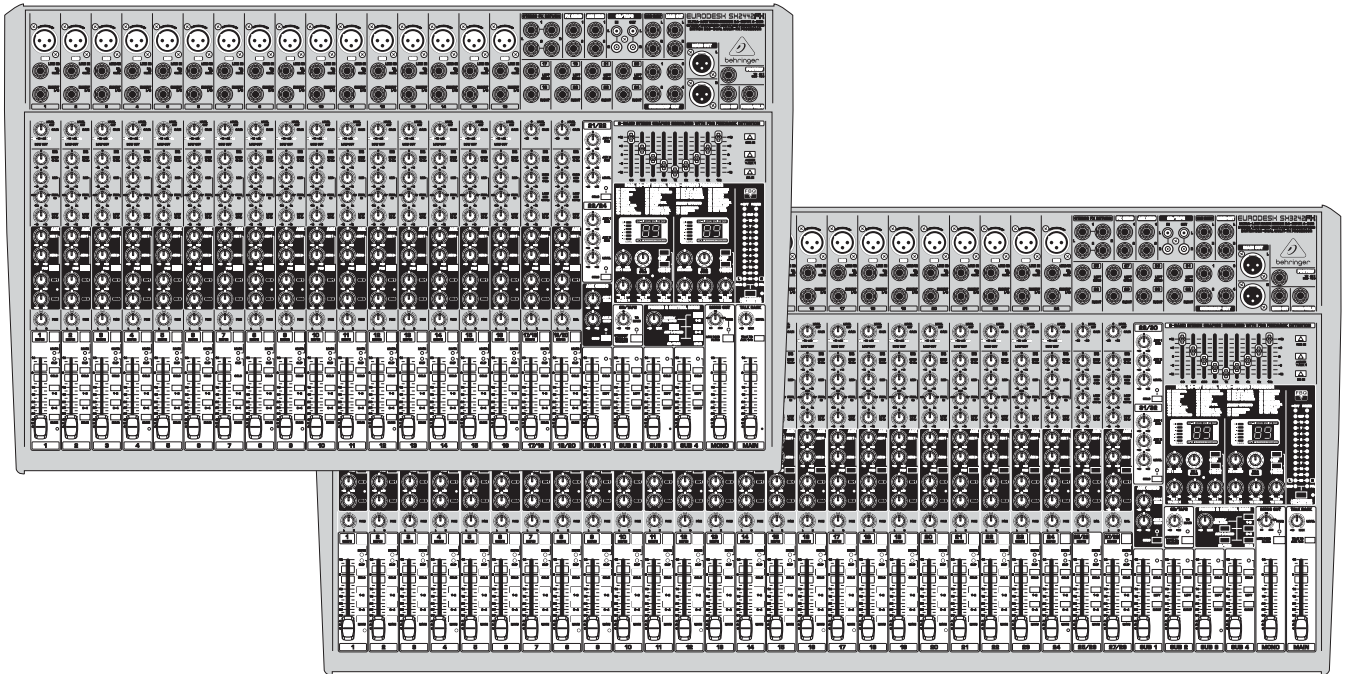




EURODESK SX3242FX/SX2442FX

Ultra-Low Noise Design 32/24-Input 4-Bus Studio/Live Mixer with XENYX Mic Preamplifiers, British EQs and Dual Multi-FX Processor

JP

JP

安全にお使いいただくために

**注意**

感電の恐れがありますので、カバーやその他の部品を取り外したり、開けたりしないでください。高品質なプロ用スピーカーケーブル (1/4" TS 標準ケーブルおよびツイスト ロッキング プラグケーブル) を使用してください。

**注意**

火事および感電の危険を防ぐため、本装置を水分や湿気のあるところには設置しないで下さい。装置には決して水分がかからないように注意し、花瓶など水分を含んだものは、装置の上には置かないようにしてください。

**注意**

このマークが表示されている箇所には、内部に高圧電流が生じています。手を触れると感電の恐れがあります。

**注意**

取り扱いとお手入れの方法についての重要な説明が付属の取扱説明書に記載されています。ご使用前に良くお読みください。

**注意**

1. 取扱説明書を通してご覧ください。
2. 取扱説明書を大切に保管してください。
3. 警告に従ってください。
4. 指示に従ってください。
5. 本機を水の近くで使用しないでください。
6. お手入れの際は常に乾燥した布巾を使用してください。
7. 本機は、取扱説明書の指示に従い、適切な換気を妨げない場所に設置してください。取扱説明書に従って設置してください。
8. 本機は、電気ヒーターや温風機器、ストーブ、調理台やアンプといった熱源から離して設置してください。

9. 二極式プラグおよびアースタイプ (三芯) プラグの安全ピンは取り外さないでください。二極式プラグにはピンが二本ついており、そのうち一本はもう一方よりも幅が広がっています。アースタイプの三芯プラグには二本のピンに加えてアース用のピンが一本ついています。これらの幅の広いピン、およびアースピンは、安全のためのものです。備え付けのプラグが、お使いのコンセントの形状と異なる場合は、電気技師に相談してコンセントの交換をして下さい。

10. 電源コードを踏みつけたり、挟んだりしないようご注意ください。電源コードやプラグ、コンセント及び製品との接続には十分にご注意ください。

11. すべての装置の接地 (アース) が確保されていることを確認して下さい。

12. 電源タップや電源プラグは電源遮断機として利用されている場合には、これが直ぐに操作できるよう手元に設置して下さい。

13. 付属品は本機製造元が指定したもののみをお使いください。



14. カートスタンド、三脚、ブラケット、テーブルなどは、本機製造元が指定したもの、もしくは本機の付属品となるもののみをお使いください。カート

を使用しての運搬の際は、器具の落下による怪我に十分ご注意ください。

15. 雷雨の場合、もしくは長期間ご使用にならない場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。

16. 故障の際は当社指定のサービス技術者にお問い合わせください。電源コードもしくはプラグの損傷、液体の装置内への浸入、装置の上に物が落下した場合、雨や湿気に装置が晒されてしまった場合、正常に作動しない場合、もしくは装置を地面に落下させてしまった場合など、いかなる形であれ装置に損傷が加わった場合は、装置の修理・点検を受けてください。



17. 本製品に電源コードが付属されている場合、付属の電源コードは本製品以外ではご使用いたできません。電源コードは必ず本製品に付属された電源コードのみご使用ください。

18. ブックケースなどのような、閉じたスペースには設置しないでください。

19. 本機の上に点火した蠟燭などの裸火を置かないでください。

20. 電池廃棄の際には、環境へのご配慮をお願いします。電池は、かならず電池回収場所に廃棄してください。

21. 本装置は 45℃ 以下の温帯気候でご使用ください。

法的放棄

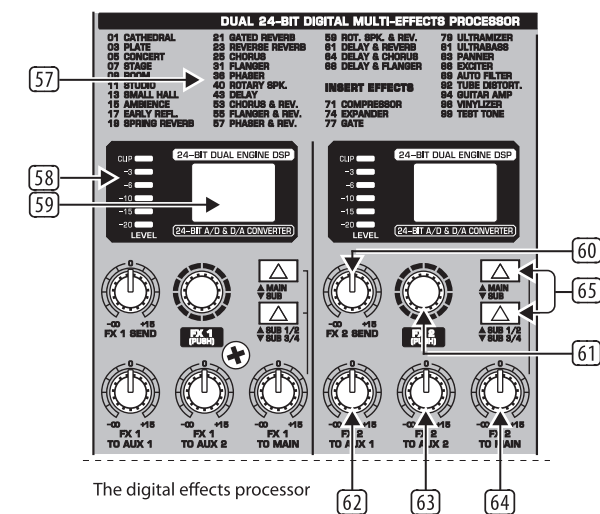
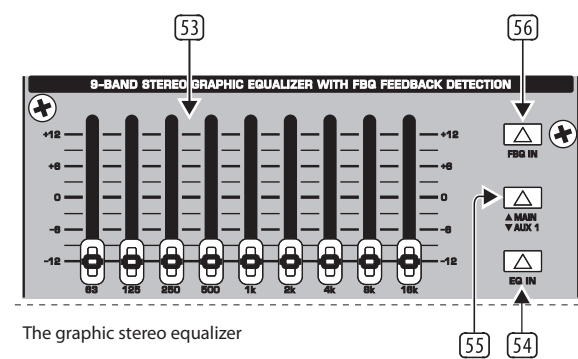
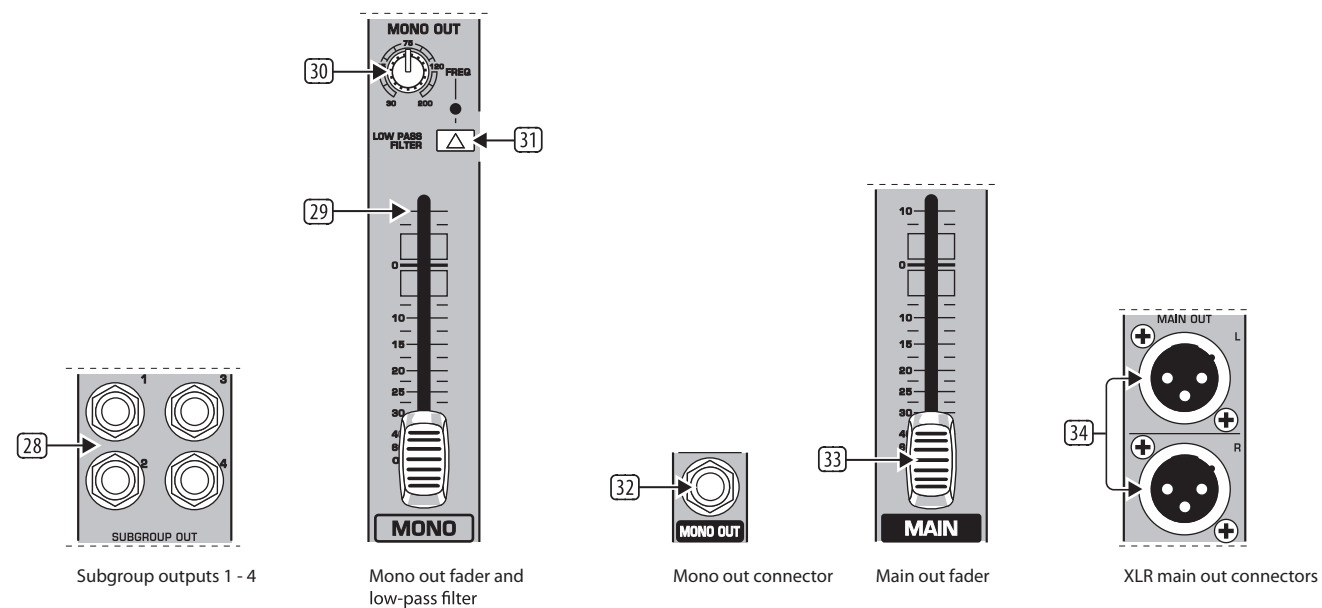
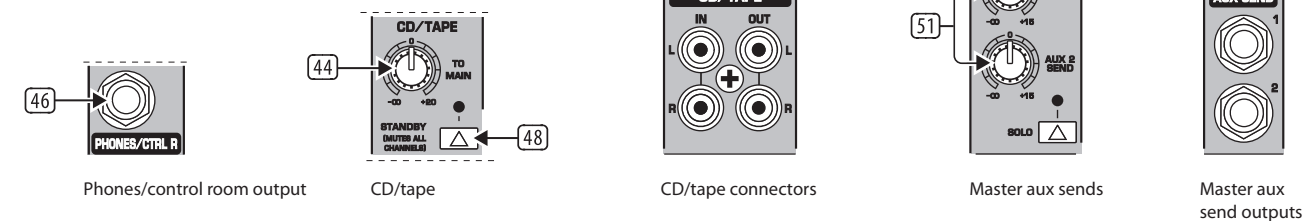
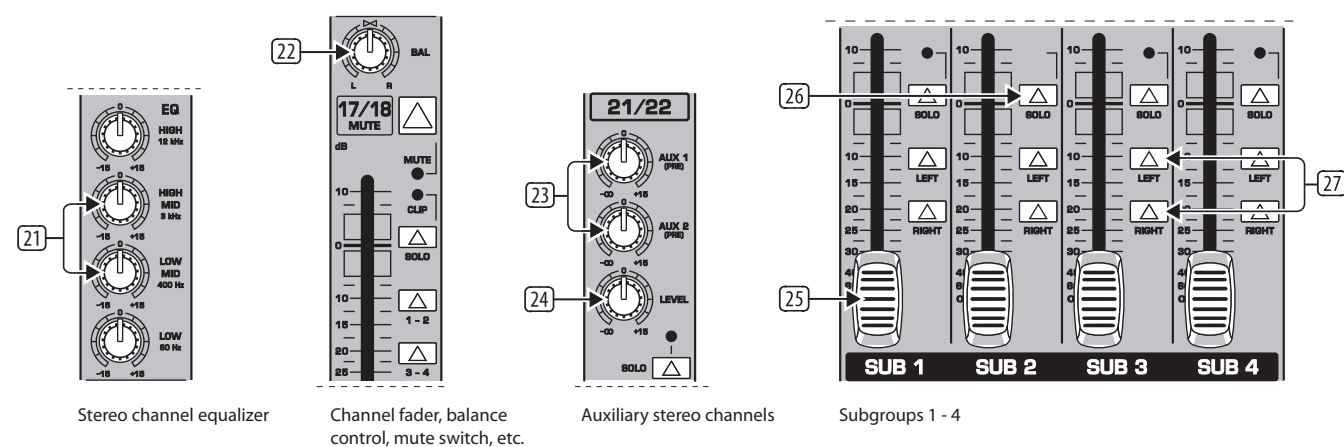
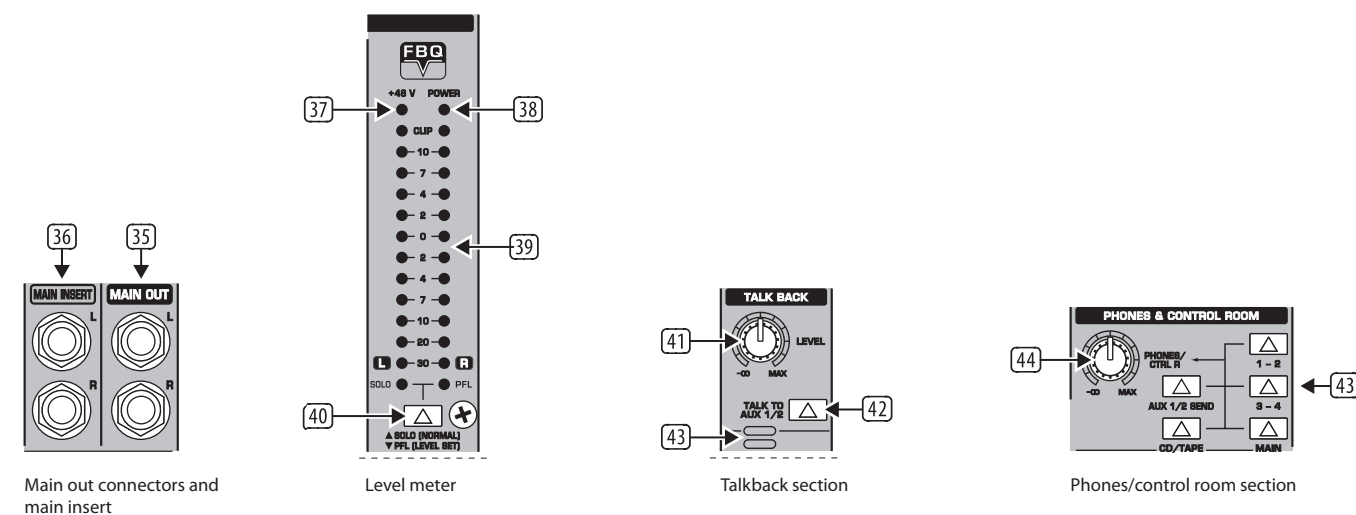
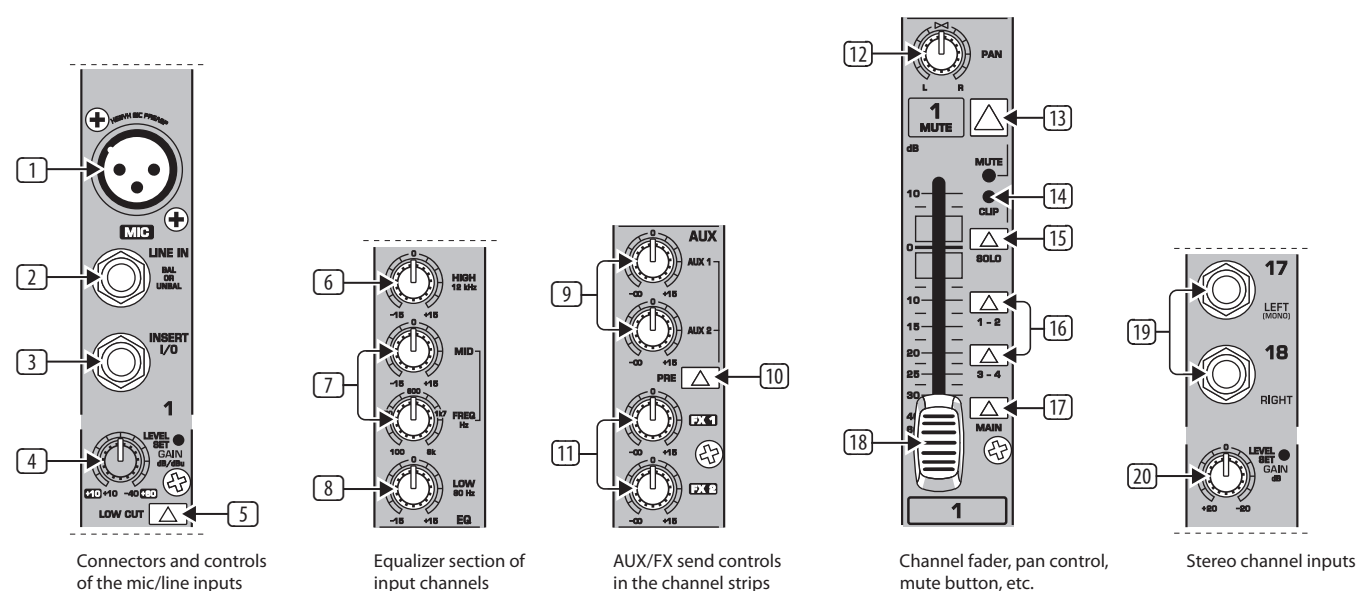
ここに含まれる記述、写真、意見の全体または一部に依拠して、いかなる人が損害を生じさせた場合にも、Music Tribe は一切の賠償責任を負いません。技術仕様、外観およびその他の情報は予告なく変更になる場合があります。商標はすべて、それぞれの所有者に帰属します。Midas、Klark Teknik、Lab Gruppen、Lake、Tannoy、Turbosound、TC Electronic、TC Helicon、Behringer、Bugera、Aston Microphones および Coolaudio は Music Tribe Global Brands Ltd. の商標または登録商標です。© Music Tribe Global Brands Ltd. 2023 無断転用禁止。

限定保証

適用される保証条件と Music Tribe の限定保証に関する概要については、オンライン上 community.musictribe.com/pages/support#warranty にて詳細をご確認ください。

EURODESK SX3242FX/SX2442FX コントロール

JP



EURODESK SX3242FX/SX2442FX コントロール

コントロール

- [1] 各モノ入力チャンネルには XLR コネクターで使用可能なバランス型マイク入力が備えられています。リアパネルにあるボタンを押して +48V ファンタム電源を入れ、コンデンサーマイクを使用することも可能です。
- [2] 各モノ入力には 6.3mm フォンジャックで利用できるバランス型ライン入力も備えられています。もちろんこれらの入力端子はアンバランス型 6.3mm TS フォンジャックでも使用可能です。
- [3] この **INSERT I/O** コネクターは、ダイナミックプロセッサーまたはイコライザーを使用して信号処理する際に使用します。このインサート端子はプリフェーダー、プリ EQ、プリ AUX センドとなっています。
- [4] **GAIN** コントローラーは入力ゲインの調節に使用します。音声信号の接続もしくは切断を行う際は、このコントローラーを完全に半時計回りに廻しきってください (レベル 0 状態)。
- [5] モノチャンネルには、フロアノイズ (18 dB/oct, -3 dB @ 80 Hz) などの不要な低周波信号をカットするハイスローブな **LOW CUT** フィルターが備えられています。
- [6] EQ セクションの **HIGH** コントローラーは、該当チャンネルの高周波帯域を調節する際に使用します。これは設定したカットオフ周波数 (12 kHz) を超えた周波数すべてをブーストまたはカットします。
- [7] **MID** コントローラーは中音域周波数の調節に使用します。これはセミパラメトリックピークフィルターとなっており、中音域の可変周波数付近の周波数をブーストと及びカットします。各 **FREQ** コントローラーを使用して 100 Hz から 8 kHz の範囲で中域周波数を選択することができます。
- [8] **LOW** コントローラーは、低周波帯域のブーストおよびカットを行います。HIGH フィルター同様、このコントローラーもシェリングフィルターとなっているため、特定のカットオフ周波数 (80 Hz) を下回るすべての周波数をブースト / カットします。
- [9] 各チャンネルでは **AUX 1** および **AUX 2** コントローラーを使用してチャンネルから送信される AUX 信号の音量を調節できます。全チャンネルから送られる AUX センド信号から構成されるサム信号は、マスターAUX SEND コントローラー([51] 参照) で調節でき、これは AUX SEND 出力 ([52] 参照) で取り出すことができます。両 AUX センドともモノラル、ポスト EQ、ゲインは +15 dB までです。

- [10] **PRE** スイッチを押すことによって、すべての AUX センドをプリフェーダーに設定することができます。この場合、AUX 信号の音量はフェーダー位置によって左右されなくなりますが、完全に独立したモニターミックスを生成することが可能となります。
- [11] **FX 1** と **FX 2** の各コントローラーは内蔵エフェクトプロセッサーへの直接ルートとなります。さらにこれらは FX SEND 1 および 2 の両出力を介し (AUX SEND 1 および 2 と類似) 外部エフェクト機器用コントローラーとして使用することもできます。内部エフェクトプロセッサーと FX SEND 出力に信号を確実に流すため、該当するエフェクトコントローラーは半時計回りに絞りがずに (レベル 0 状態)、マスター FX SEND ([60] 参照) を上げてください。エフェクトパスはポストフェーダーとなっています。
- [12] **PAN** コントローラーを使用してステレオフィールド内のチャンネル信号位置を調節できます。さらにチャンネル信号をルートするサブグループの決定が行えます。
- [13] **MUTE** スイッチでチャンネル信号の切断またはミュートができます。つまりこれによってチャンネル信号はメインミックス信号の一部ではなくなるというわけです。同時に、ポストフェーダーに設定された該当チャンネルの AUX パスはミュートされます。一方、プリフェーダーモニターパスは操作可能となります。
- [14] チャンネルがオーバーロードすると **CLIP LED** が点灯します。点灯した場合は、GAIN コントローラーを使用して入力ゲインを下げてください。この LED は **SOLO** スイッチでソロ機能を起動させた際にも同様に点灯します。
- [15] チャンネル信号をソロパス (ソロインプレース) または PFL パス (プリフェーダーリッスン) にルートする際は、この **SOLO** スイッチを使用してください。これによってメイン出力信号に影響を与えずにチャンネル信号をモニターすることができます。モニター信号はこの時パノラマコントローラーおよびチャンネルフェーダー (SOLO/PFL スイッチ [40] の位置に左右されます) のプリ段階 (PFL、モノ) または、ポスト段階 (ソロ、ステレオ) で取り込むことができます。
- [16] **SUB** スイッチは信号を該当するサブグループへとルートします。この EURODESK には 4 つのサブグループ (1-2 および 3-4) があります。入力チャンネル ([12] 参照) の PAN コントローラーを使えば、信号をどちらのサブグループにルートするかを決定することができます (左位置 1 または 3。右位置 2 または 4)。

- [17] **MAIN** スイッチは信号をメインミックスにルートします。
- [18] チャンネルフェーダーは、メインミックス (もしくはサブミックス) の一部としてのチャンネル信号レベルを調節します。
- [19] 各ステレオチャンネルには 2 つのバランス型ラインレベル入力があり 6.3mm フォンジャックでそれぞれ左 / 右に備えられています。左側の端子のみを使用すれば、各チャンネルともモノ信号を処理することが可能です。
- [20] すべてのステレオチャンネルには、ゲイン調節用の **GAIN** コントローラーが備えられています。調節可能範囲は、+20 ~ -20 dB です。これによって入力レベルをラインレベルに適用させることができます。
- [21] ステレオチャンネルにはもちろんステレオイコライザーが備えられています。HIGH および LOW フィルターのフィルタータイプおよびカットオフ周波数はモノチャンネルのものと同一です。ステレオチャンネルには、1 つのセミパラメトリック中音域バンドの代わりに、固定中音域周波数 (3 kHz と 400 Hz) をもつ 2 つの独立した中音域バンド ([21] HIGH MID と LOW MID) が備えられています。モノイコライザーに比べ、ステレオイコライザーはステレオ信号の周波数レスポンスの処理に好まれて使用されます。2 つのモノイコライザーでは、左右両チャンネルのセッティングの違いによって問題が生じる場合があります。
- [22] この **BAL(ANCE)** コントローラーは、モノチャンネル部の PAN コントローラーと同様の働きをします。このコントローラーは、左 / 右入力信号がステレオメインミックスパスにルートされる前の相対音量を調節します。
- [23] + [24] EURODESK には、ひとつの AUX センドセクション (AUX 1 と AUX 2) と LEVEL コントローラー のみで構成されています。2 つのステレオチャンネルが備えられています。これらのチャンネルでは、AUX パスはプリフェーダーで接続されているため、モニタリングの際に特に便利となります。ルーティングスイッチが装備されていないので、信号は常にメインミックスに送られます。通常のステレオチャンネル同様、左右両チャンネルに 6.3mm フォンジャックで使用可能な 2 つのラインレベル入力端子と SOLO スイッチが備えられています。

- [25] サブグループフェーダーは、サブグループ出力端子 ([28] 参照) におけるサブグループ信号の音量を調節します。ルーティングスイッチ ([27] 参照) の位置によっては、メインミックス内のサブグループボリュームを調節することも可能です。
- [26] (**SOLO** スイッチは、サブグループ信号をソロパス (ソロインプレース) または PFL パス (プリフェーダーリッスン) にルートします。これによってメイン出力またはサブ出力信号に影響を与えることなくサブグループ信号のモニターが可能となります。モニターされる信号は、SOLO/PFL スイッチ ([40]) の位置に応じて、プリ (PFL、モノ) もしくはポストサブグループフェーダー (ソロ、ステレオ) で取り込まれます。SOLO スイッチを押すと SOLO LED が点灯します。
- [27] サブグループ信号をメインミックスにルートする際は、サブグループのルーティングスイッチを使用します。これによって、左ステレオ側 (**LEFT** を押す)、右ステレオ側 (**RIGHT** を押す) または両側 (LEFT と RIGHT の両方を押す) に信号を送り込むことができます。例えば、サブグループ 1 と 2 を使ってステレオサブミックスを作成した場合は、グループ 1 を左ステレオへ、グループ 2 を右ステレオへ送り、正しいステレオポジションが得られるように気をつけて下さい。モノサブミックスの作業をただひとつのサブグループで行う場合は、信号をメインミックスの左右ステレオサイドへ送り込み、両サイドから信号が聞こえるようにします。
- [28] これら 4 つの **SUBGROUP OUT** では各サブグループ信号が取り出されます。マルチトラックレコーディングの際は、マルチトラックレコーダーの入力端子とこの出力端子を接続してください。
- [29] **MONO** フェーダーは、MONO OUT で取り出される信号の音量調節を行います ([32] 参照)。
- [30] **FREQ** コントローラーは、ローパスフィルター (30 - 200 Hz) のカットオフ周波数を設定する際に使用します。フィルター起動時は、ここで設定したスレショルド値を超える周波数はカットされます。
- [31] この **LOW PASS FILTER** スイッチで、フィルター機能を起動させます (LED が点灯)。
- [32] この **MONO OUT** 端子に流れるモノ信号は、パワーアンプやアクティブスピーカーの入力端子に接続することができます。この出力端子をモニターパスとして使用し、ヘッドフォンアンプを接続することも可能です。その場合はもちろん、信号は LOW PASS FILTER で制限されてはなりません。

- [33] この正確な **MAIN** フェーダーを使って、メインミックス信号の出力レベルをコントロールすることができます。
- [34] **MAIN OUT** は +4 dB のバランス型 XLR コネクターとなっており、メインミックス信号が取り出されます。
- [35] 追加 **MAIN OUT** の 6.3mm フォンジャック端子でも同様にメインミックス信号が取り出されます。
- [36] チャンネルインサートとほぼ同様に、**MAIN INSERT** コネクターも、ミックス信号の処理のためにダイナミックプロセッサーやイコライザーへ接続することが可能となっています。MAIN INSERTは、MAIN OUT (XLR および 6.3mm フォンジャック)、MONO OUT ([32] 参照)、さらに PHONES/CONTROL ROOM セクションの MAIN スイッチが入っていれば PHONES/CTRL ROOM 出力にも適用されます (参照)。
- [37] ファンタム電源がオンになると、赤色の **+48V LED** が点灯します。ファンタム電源は、コンデンサーマイクの使用時に必要とされるもので、ミキサーのリアパネルにあるスイッチで起動させることができます。
- [38] ミキサーに電源が入るとこの **POWER LED** が点灯します。
- [39] 出力信号レベルは、この正確なレベルメーターに表示されます。例えば、入力チャンネル部の SOLO スイッチを押すと、このメーター上に信号レベルがプリフェーダー (PFL) もしくはポストフェーダー (POST) で表示されるわけです。これは SOLO/PFL スイッチの位置に左右されます ([40] 参照)。PFL モードでは、信号が常にモノラルとなるため、左のディスプレイのみにレベルが表示されます。
- [40] **SOLO/PFL** スイッチは、SOLO スイッチを押した際 (LED が点灯) に信号がプリ (PFL) またはポスト (SOLO) フェーダーのどちらでモニターされるかの設定をします。レベルメーターには該当信号が表示されます ([39] 参照)。GAIN コントローラーを使用して信号を調節した場合は、表示されたレベルがチャンネルフェーダーの位置に左右されないよう PFL モードを選択することをお勧めします。
- [41] **LEVEL** コントローラーは AUX 1/2 出力端子に取り込まれるトークバック信号の音量調節を行います。
- [42] この **TALK TO AUX 1/2** スイッチを使用して、ビルトイン型のトークバックマイクを起動させます。この信号は AUX SEND 端子 1 と 2 に送られます。話している間は、このスイッチを押しつづけてください。

EURODESK SX3242FX/SX2442FX コントロール

コントロール

- [43] これがビルトイン型のトークバックマイクです。
- [44] **PHONES/CTRL R** コントローラーは、PHONES/CTRL ROOM OUT 端子に接続されたヘッドフォンの音量調節を行います ([46] 参照)。アクティブモニタースピーカーまたはパワーアンプをここに接続している場合は、モニターの音量もこれで調節できます。
- [45] これらのスイッチによって PHONES/CTRLROOM 端子に送り込む信号を選択することができます。利用可能なソースは、MAIN、CD/TAPE、AUX 1/2 およびサブグループ 1-2 と 3-4 です。
- [46] ヘッドフォンまたはモニタースピーカーをこの **PHONES/CTRL ROOM OUT** の 6.3 mm TRS フォンジャックに接続してください。
- [47] 例えば CD プレーヤーを CD / テープ入力端子に接続した場合 ([49] 参照)、メインミックスの音量は **TO MAIN** コントローラーで調節することができます。
- [48] **STANDBY** スイッチを押すと、すべての入力チャンネルはミュートされ、CD / テープ信号のみがメインミックスにルートされます。これによって、休憩時やセットチェンジ時にマイクがノイズや干渉を拾い、PA システムに流してしまうことを防ぐことができます。場合によってはスピーカーのダイアフラムを破壊してしまうこともあります。このスイッチの特に優れた特徴は、メインミックスフェーダーを調節することなく、CD / テープ入力 ([49] 参照) からの CD 音源をプレイバックできることです。ミュートされたチャンネルのフェーダーを下げる必要ももちろんありません。
- [49] これは CD プレーヤーやテープデッキなどラインレベル信号接続用の **CD/TAPEINPUT RCA** ピンプラグ端子です。信号音量は TO MAIN コントローラーで調節してください。
- [50] **CD/TAPE OUTPUT RCA** ピンプラグ端子はステレオメインミックス信号を取り込みます。ミックス音源のレコーディングの際は、ここにテープデッキや DAT レコーダーを接続してください。信号は、フェーダーの動きに左右されないようプリフェーダーで取り込まれます。
- [51] これはマスター **AUX SEND** コントローラー 1 と 2 です。これによって該当する AUX センド端子 ([52] 参照) の音量レベルを調節することができます。これを使用することで、入力チャンネル部のすべての AUX1 または AUX2 信号のミックスをコントロールできます。SOLO スイッチは、AUX SEND セクションにも備えられています。

- [52] この **AUX SEND** 出力 1 と 2 でマスター AUX SEND 信号を取り出し、外部エフェクト機器やモニタースピーカーにルートすることができます。エフェクト信号は、例えば STEREO FX RETURN 入力端子 ([67] 参照) または特定の入力チャンネルを介してリターンさせることも可能です。
- [53] EURODESK には、メイン信号もしくは AUX1 信号を処理するグラフィック 9 バンドステレオ EQ が備えられています。サウンドをルーム音響に適応させる際に使用します。
- [54] この **EQ IN** スイッチで、イコライザーを起動させます。フェーダー LED が点灯します。
- [55] **MAIN/AUX1** スイッチによって、メイン信号または AUX1 信号のどちらをイコライザーで処理するかを決定します。
- [56] **FBQ IN** スイッチを押すと、FBQ フィードバック検知システムが作動します。フィードバックの原因となる周波数は明るく点灯したフェーダー LED に表示されます。その他の周波数 LED は薄暗します。問題となる周波数帯域のレベルを下げ、フィードバックを抑制してください。
- [57] すべてのマルチエフェクトプリセットの一覧がここに記載されています。
- [58] エフェクトプロセッサの入力信号がこの FX LED レベルメーターに表示されます。クリップ LED は、信号超過時にのみ点灯するよう設定してください。常にクリップ LED が点灯している場合は、エフェクトプロセッサ信号がオーバーロードしており、歪みの原因となります。
- [59] この **EFFECT** ディスプレイには、現在選択中のプリセットが表示されます。
- [60] このマスター **FX1** (または **2**) SEND コントローラーで、各 FX センド端子 ([66] 参照) および内蔵エフェクトプロセッサの入力部に流される全ての FX センド信号の音量を調節できます。入力チャンネルからの全ての FX1/FX2 信号のマスター信号をコントロールする際に使用します。どちらの FX SEND コントローラーも使用していない場合は、エフェクトプロセッサに入力信号は流れません。
- [61] **FX1** (または **FX2**) コントローラーを使用してエフェクトプリセットを選択してください。コントロールを軽く押す (プッシュ) と、選択したエフェクトが決定され、起動します。

- [62] **FX1** (または **2**) **TO AUX1** コントローラーによって、内蔵エフェクトプロセッサ (FX1 または FX2) のエフェクト信号を AUX1 モニター信号へミックスすることができます。このためには事前にエフェクトプロセッサに信号が流される必要があります。つまりチャンネルセクションの FX コントローラーおよび FX SEND コントローラーが使用され、フェーダーが開放されていなければなりません。
- [63] これは **FX1** (または **2**) **TO AUX2** コントローラーで、エフェクトプロセッサのエフェクト信号を AUX2 モニター信号にミックスさせることができます。詳細は をご参照ください。
- [64] **FX1** (または **2**) **TO MAIN** コントローラーを使って、エフェクト信号をメインミックス、もしくはサブグループ 1 と 2 (もしくは 3 と 4) にルートすることができます (コントロール上でのセレクタースイッチの位置で変化します。[65] 参照)。コントロールを左に絞りとすると、エフェクト信号は聞こえなくなります。ここでもチャンネルセクションの FX コントローラーおよび FX SEND コントローラーが使用され、フェーダーが開放されていなければなりません。
- [65] この選択スイッチによって、エフェクト信号をメインミックスあるいはサブグループ 1-2 もしくは 3-4 にルートすることができます。上部の **MAIN/SUB** スイッチが押されていない場合、エフェクト信号はメインミックスに流されます。下方にある **SUB 1/2 / SUB 3/4** スイッチはこの場合機能しません。しかし、上部のスイッチを押すと (SUB)、下部のスイッチはエフェクト信号をサブグループ 1 と 2 (SUB 1/2) または 3 と 4 (SUB 3/4) のどちらにルートするかを決定します。
- [66] **FX SEND 1** と **2** 端子ではさらにマスター FX 信号が取り出されます。これは例えば外部エフェクト機器の入力部と接続できます。この時、信号は「ドライ」となります。エフェクトプロセッサからのエフェクト信号は加わりません。
- [67] **STEREO FX RETURN** 入力 **1** と **2** を使用して、外部エフェクトプロセッサからのエフェクト信号をリターンさせ、それをメインミックスに加えることができます。
- [68] この **FOOTSW**(ITCH) コネクタに標準的なデュアルフットスイッチを接続すれば、FX1 または FX2 を自由に切り替えることが可能となります。

- [69] この **POWER** スイッチで装置に電源を投入します。このスイッチは、装置を主電源につなげるまで「オフ」の状態になっていることをご確認ください。
- [70] この **PHANTOM** スイッチで、モノチャンネルの XLR コネクタにコンデンサマイク使用時に必要となるファンタム電源を供給することができます。ファンタム電源が起動すると、この +48 V LED ([37] 参照) が点灯します。ダイナミックマイクの使用もバランス接続されている限りは可能となります。詳しくは、マイク製造メーカーまでお問い合わせください。
- [71] 電源接続には標準型 IEC ケーブルを使用してください。適切な電源ケーブルは製品に付属されています。
- [72] **ヒューズホルダー**。
- [73] **シリアルナンバー**。

JP技術仕様

SX3242FX		SX2442FX
モノラル入力		
マイク入力 (XENYX マイクプリアンプ)		
タイプ	XLR コネクター、電子的にバランスの取れたディスクリート入力回路	
マイク EIN (20 Hz～20 kHz)		
@ 0 Ω ソース抵抗	-134 dB / 135.7 dB A 加重	
@ 50 Ω ソース抵抗	-131 dB / 133.3 dB A 加重	
@ 150 Ω ソース抵抗	-129 dB / 130.5 dB A 加重	
周波数応答		
<10 Hz～160 kHz	-1 dB	
<10 Hz～200 kHz	-3 dB	
ゲイン範囲	+10 dB ～ +60 dB	
最大 入力レベル	+12 dBu @ +10 dB ゲイン	
インピーダンス	約 2.6 kΩ バランス	
信号対雑音比	110 dB / 112 dB A 加重 (0 dBu In @ +22 dB GAIN)	
歪み (THD + N)	0.005% / 0.004% A 加重	
ライン入力		
タイプ	¼" TRS ジャック、電子的にバランスが取れている	
インピーダンス	約 バランスの取れた 20 kΩ、約 10 kΩ 不平衡	
ゲイン範囲	-10 dB ～ +40 dB	
最大 入力レベル	+22 dBu @ 0 dB ゲイン	
フェードアウト減衰 (クロストーク減衰)		
メインフェーダーが閉じています	90 dB	
チャンネルがミュートされました	84 dB	
チャンネルフェーダーがミュートされました	85 dB	
周波数応答 (マイク入力→メイン出力)		
<10 Hz～90 kHz	+0 dB / -1 dB	
<10 Hz～160 kHz	+0 dB / -3 dB	
ステレオ入力		
タイプ	2x ¼" TRS ジャック、バランス	
インピーダンス	約 バランスの取れた 20 kΩ、約 10 kΩ 不平衡	
ゲイン範囲	-20 dB ～ +20 dB	
最大 入力レベル	+22 dBu @ 0 dB ゲイン	
CD / テープイン		
タイプ	RCA コネクタ	
インピーダンス	約 10 kΩ	
最大 入力レベル	+22 dBu	
イコライザ		
EQ モノチャンネル		
LOW	80 Hz / ±15dB	
MID	100 Hz～8 kHz / ±15 dB	
高い	12 kHz / ±15 dB	
ローカット	80 Hz、18 dB / oct。	
EQ ステレオチャンネル		
LOW	80 Hz / ±15 dB	
LOW MID	500 Hz / ±15 dB	
ハイミッド	3 kHz / ±15 dB	
高い	12 kHz / ±15 dB	

SX3242FX		SX2442FX
メイン出力 (XLR)		
タイプ	XLR コネクター、電子バランス	
インピーダンス	約 240 Ω バランス、約。 120 Ω 不平衡	
最大 出力レベル	+28 dBu	
メイン出力 (¼")		
タイプ	¼" TRS ジャック、電子的にバランスが取れている	
インピーダンス	約 240 Ω バランス、約。 120 Ω 不平衡	
最大 出力レベル	+28 dBu	
メインインサート		
タイプ	¼" TRS ジャック、アンバランス	
最大 入力レベル	+22 dBu	
モノラル出力		
タイプ	¼" モノジャック、アンバランス	
インピーダンス	約 120 Ω	
最大 出力レベル	+22 dBu	
ローパス	可変、30 Hz〜200 Hz、18 dB / oct。	
電話/ CTRLルーム出力		
タイプ	¼" TRS ジャック、バランスなし	
最大 出力レベル	+19 dBu / 150 Ω (+ 25 dBm)	
CD/テープアウト		
タイプ	RCA コネクタ	
インピーダンス	約 1 kΩ	
最大 出力レベル	+22 dBu	
DSP		
タイプ	テキサスインスツルメンツ	
コンバータ	24 ビットデルタシグマ、64/128 倍のオーバーサンプリング	
サンプリングレート	46 kHz	
メインミックスシステムデータ (ノイズ)		
メインミックス @ -∞、チャンネルフェーダー @ -∞	-100 dB / -102.5 dBA 加重	
メインミックス @ 0 dB、チャンネルフェーダー @ -∞	-82 dB / -85 dBA 加重	
メインミックス @ 0 dB、チャンネルフェーダー @ 0 dB	-72 dB / -75 dBA 加重	
電源		
消費電力	50 W	
ヒューズ (100-240 V〜、50/60 Hz)	T 2,0 AH 250 V	
メインコネクタ	標準 IEC レセプタクル	
物理的/重量		
寸法 (H x W x D)	100 x 896 x 410 mm (3.9 x 35.3 x 16.1")	100 x 682 x 410 mm (3.9 x 26.9 x 16.1")
重量 (正味)	11.0 kg (24.3 lbs)	8.6 kg (19 lbs)

その他の重要な情報

JP

その他の重要な情報

1. ヒューズの格納部 / 電圧の選択:

ユニットをパワーソケットに接続する前に、各モデルに対応した正しい主電源を使用していることを確認してください。ユニットによっては、230 V と 120 V の 2 つの違うポジションを切り替えて使う、ヒューズの格納部を備えているものがあります。正しくない値のヒューズは、絶対に適切な値のヒューズに交換されている必要があります。

2. 故障: Music Tribe ディーラーがお客様のお近くにはないときは、musictribe.com の “Support” 内に列記されている、お客様の国の Music Tribe ディストリビューターにコンタクトすることができます。お 客様の国がリストにない場合は、同じ musictribe.com の “Support” 内にある “Online Support” でお客様の問題が処理できないか、チェックしてみてください。あるいは、商品を返送する前に、musictribe.com で、オンラインの保証請求を要請してください。

3. 電源接続: 電源ソケットに電源コードを接続する前に、本製品に適切な電圧を使用していることをご確認ください。不具合が発生したヒューズは必ず電圧および電流、種類が同じヒューズに交換する必要があります。

We Hear You